

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2017 4 - 5 vol. 43

絵本作家インタビュー こみねゆら

特集 家庭文庫を開いて



こみねゆら

お話の流れも、
ほんの小さな部分の色も、
「ひらめき」に満ちたものでありたい。



こみねゆら プロフィール

1956年熊本市生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科油画、同大学院修了後、フランスに留学。1992年初めての絵本『Les deux Soeurs』をフランスの出版社より刊行。1994年帰国。作絵の絵本に『ミシンのうた』『オルゴールのくるくるちゃん』（講談社）『にんぎょうげきだん』（白泉社）など。絵を担当した絵本に『初雪のふる日』（安房直子／作 偕成社）『くまの楽器店』（安房直子／作 小学館）『しらゆきひめ』（矢川澄子／再話 教育画劇）など多数。『さくら子のたんじょう日』（宮川ひろ／作 童心社）で第10回、『ともだちできたよ』（内田麟太郎／文 文研出版）で第18回日本絵本賞を受賞。『オルゴールのくるくるちゃん』で第47回講談社出版文化賞絵本賞を受賞。

絵本原画展開催
平成29年4月1日(土)～5月30日(火)

原画展示絵本



『しあわせなおうじ』
(オスカー・ワイルド／原作
間所ひさこ／文 フレーベル館)
仲間とはぐれたつばめが降り立
った街に建つしあわせな王子の像。
金で覆われた体、サファイアの目、ル
ビーがはめ込まれた剣を持つ王子
は、不幸な人々を思つて涙を流し、
つばめにある頼みごとをします。



『人くい鬼』
(グリム／原作 あすなろ書房)
お妃さまが海へ流した金のゆり
かごには、女の子が乗っていました。
流れ着いた人くい鬼の島で大きく
なり、美しいむすめになった女の子。
人くい鬼の息子との結婚式が近づ
いていましたが、若く美しい王子と
出会い、3つのお宝を持つて逃げ出
しました。

春のギャラリーでは、名作絵本から、オスカー・ワイルド作『しあわせなおうじ』と
グリム童話の『人くい鬼』の2冊をご紹介します。

こみねゆら先生に
インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

大学は美術学部の油画科だったので
が、どうしても大きな作品作りに馴染めな
くて。その頃夢中になっていた児童文学への
傾倒もあり、小さな世界で完結する絵本に
憧れはじめてました。

画材は何を使っていらっしゃいますか？

アクリル、水彩、油絵の具、色鉛筆です。
以前は画材を統一することにこだわって
いたのですが、最近は描きやすければなん
でも、一つの画面に使います。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や
思い出を教えてください。

『しあわせなおうじ』は小さい頃、とても
気になる絵本でした。何度読んでも納得で
なくて…。何故こんなに尽くしている王子
とツバメが報われない？初めて積極的に疑
問を持ち、何度も読みながら考えました。そ
んなふうな私の『しあわせなおうじ』も、みな
さんにとって考えるきっかけになってくれ
ることを願います。

『人くい鬼』

20年以上前に、いつかグリム童話を描く
ならこのお話を描いてみたいと思ったのが、

『人くい鬼』でした。夢叶つて『人くい鬼』を
描けることになって、「私、鬼、描けない!!」
と気付きました。自分には描けそうにない
世界だから、なお憧れたのかもしれない。
私の人くい鬼が、ちゃんと鬼になつていれ
ばいいのですが…！

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象
深い絵本は？

たくさん描いてきたので選ぶのは難しいの
ですが、最近の本で言うと『オルゴールのく
るくるちゃん』です。長く住んでいたフランス
を20年ぶりに訪ねて、くるくるちゃんのモデ
ルとなつてくれるセルロイドの人形を探しま
した。結局ビッタリのは見つけれず、想像
で描くことになったのですが、くるくるちゃ
んや物語の舞台を求めて歩き回った久しぶ
りのフランスがとても輝いていたことを思い
出します。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

絵本の流れとは関係ないことな
が、絵の中のどんな部分も輝くように美し
く彩りたいと願っています。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

描くことによって救われたり、お話を作り
ながら何か大切なことを見つめ直したりし
ています。きっと絵本を作っている私自身が、
一番楽しんでいるのだらうと思います。時間
をかけて好きなことに取り組むことは楽し

いだろうなあ、好きなことを探してみたいな
あと、見る人に思っていただけたら、それは
とてもうれしいことです。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

仕立屋さんの絵本を描きかけていて、出
来上がるのがとても楽しみです。他には、ぬ
いぐるみの絵本や夢の絵本、よくばつてたく
さん作りかけています。

ご趣味についてお聞かせください。

小さなお人形を作ることです。無理だな
と思う3センチ程の小さなお人形も、集中
して作っていると、いつか出来てくるのがう
れしいです。

お好きな言葉を教えてください。

「ひらめき」。私がいつも待っているものです。
お話の流れも、ほんの小さな部分の色も、
ひらめきに満ちたものでありたいです。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

絵本を見ていただけて、本当にうれしいで
す。手に取ってくださるだけでとても幸せで
す。ありがとうございます。もつとがんばつ
て、私らしい絵本を作っていきたいです。

こみねゆら先生、ありがとうございました！

こみねゆら先生サイン入りの 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年齢、住所、電話番号をご明記のうえ、
ハガキでご応募ください。
あて 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
こみねゆら サイン本プレゼント係
締め切り 平成29年6月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『人くい鬼』
(あすなろ書房)

募集がはじまります！

**おおしま国際手づくり
絵本コンクール2017
作品募集**

最優秀作品は出版します！

おおしま国際
手づくり絵本
コンクール2015
最優秀受賞作品
『海への町へ』2016年7月出版

募集期間 平成29年5月9日(火)～17日(水) 必着

募集内容 未発表の手づくり絵本
(過去一年以内に制作したものでテーマは自由)

応募資格 作者が18歳以上であること
(高校生は不可)

募集部門 (1) 一般の部 (2) しかけの部
*しかけが盛り込まれた絵本を募集します。

※詳しくはお問い合わせください。



▼ジャンボかるた大会 1/8

恒例のジャンボかるた大会は過去最高の参加数。1等賞めざして今年も白熱した勝負が繰り広げられました。勢いに乗って一人で10枚も札が取れた子や、徐々に負けん気を発揮してくる子、少ししか取れなくて悔し涙を流す子…短い時間の中にも様々な成長ドラマが見られました。

ところでかるたは射水市の名所・名物を詠みこんだ絵本館のオリジナル。伝統の遊びを通して故郷・射水市の自慢をいっぱい覚えてほしいですね。

イベントレポート

2016.12月～2017.1月

▼クリスマスコンサート 12/4

絵本館のクリスマスコンサートは人形劇や絵本朗読、クラシック演奏と毎年盛りだくさん！今回は『にじいろのすず』の絵本朗読に合わせて会場の子どもたちも鈴を鳴らして物語の演出に参加。そして最後にはお待ちかねのサンタさんが登場。大きな袋からお菓子が出てくると、みんなは「ありがとう」と笑顔で受け取っていました。



射水市大島絵本館 白鳥倶楽部

会員募集のご案内

大島絵本館をまるごと楽しめる
お得な年間会員になりませんか？

入館無料券と、すべての有料イベントのペア入場券のほか、絵本、カフェドリンク券、『マグちゃん通信』のお届けなどの特典があります。会費は10,000円です。

◎詳しくはお問い合わせください。

絵本館 創作教室2017 登録家族募集

バラエティに富んだ素材を使って、親子で楽しむ「ものづくり」。年10回の教室です。

- 募集期間 … 平成29年3月より
- 登録代 … 1家族800円
- 材料代 … 各回500～1,000円

※詳しくはお問い合わせください。



しめなわを右にねじねじしたりして手が疲れたけど楽しかったです。(かのさん・10歳)

一年間良い年になるようにつくりました。飾りつけをがんばりました。(こうがさん・6歳)



創作教室レポート

第7回「もういくつねると…」 12/17・18

年神様をお迎えするための注連飾りづくりに挑戦。藁ではなく紙紐で縄を編むのは一苦労でしたが、縁起物の扇、松ぼっくり、南天、御幣や、水引などを思い思いに飾り付けて、注連飾りが完成したときは、皆さん大満足の笑顔でした。

第8回「いっしょにおでかけ」 1/21・22

富山の冬と言えば雪。たとえ吹雪いていても一緒におでかけできそうな水に強いガムテープのバッグをつくりました。カラフルなガムテープとカッティングシートの模様がおしゃれで、しかも丈夫！冬だけでなく、春には砂遊び、夏には水遊びにも活躍しそうです。



きれいにできました。買い物やおでかけのときに持って行きたいです。(かんちゃん 6歳)

簡単な材料で無限にデザインできるのが楽しい。家でも作ってみたいと思います。(そうまくんのお母さん)

6・7月イベント

シアター・パフォーマンスホール
音と砂の幻想劇

出演/サウンドアートパフォーマンスグループ
SILT-clate

■料金
とき/6月25日(日) 14時～15時00分
大人1,500円・3歳～高校生800円

■おもしろ国際手づくり絵本コンクール2017
[参加作品展]
■とき/5月25日(木)～6月11日(日)
[入賞・入選作品展]
■とき/7月5日(水)～7月23日(日)

■カフェギャラリー
■笹川むもん 作品展
■とき/6月1日(木)～6月15日(木)

■カテナリイ曲線など
■坪田廣信展
■とき/6月16日(金)～6月29日(木)

■でこりん展
■とき/7月1日(土)～7月14日(金)

■パステル 和展(なごみてん)
■とき/7月15日(土)～8月1日(火)

■ギャラリー
■ひがしちから 絵本原画展
■とき/6月1日(木)～7月20日(木)

■展示原画
■「ほくのかえりみち」
■「いま、なんでもいっしょ」(ともにこ)出版

特集 / 家庭文庫を開いて



細川 律子
はまなす文庫主宰

大島絵本館との出会い

かほく市(石川県)の自宅に「はまなす文庫」という子ども向けの家庭文庫を開いてから、今年の秋で三十五年を迎えます。家庭文庫というのは、家庭の図書室を地域に開放し、本の貸し出しや「おはなし会」を楽しむところ。一九八二年にオープンしてから、長い年月の間には細々と、消え入りそうな時もありましたが、毎月一回のおはなし会は絶えることなく続き、いつも二十人前後の親子が集います。

岩手の山村で育った私は、十八歳の時「子どもの図書館」(石井桃子著・岩波新書)に出会い、目を見張りました。児童文学者である石井桃子さんが自宅の一室に子どもたちのために小さな図書室を開いた七年間の記録が書いてあったのです。そこには、私の知らない本がたくさん紹介されており、その本を子ども達が楽しそうに読んでいた姿に驚きました。そして、私もその本が読みたい！石井桃子さんのように子ども達と一緒に楽しみたい！と願うようになり、それから十二年後、念願が叶い、当時住んでいた七尾市の県営住宅で家庭文庫をスタートさせることができ、現在につながっています。

この文庫の仲間たちと、開館三年目の大島絵本館を訪ねた時の感動は今も忘れられません。大空に浮かぶ船に誘われるように館に入ると、大好きな絵本いっぱい、広いライブラリーがあり、絵本作りを教えてもらえるワークシートの部屋があり、憧れの絵本の原画展もゆっくり観ることができたのです。おまけにギャラリーのあるカフェや絵本や小物の買えるショップもありました。そして何より、その温かい絵本館の雰囲気、みんなが感動したのです。私はさっそく、手づくり絵本のキットを求めて帰り、文庫でも絵本作りを楽しむようになりました。

私のおすすめ絵本

『半日村』 斎藤隆介/作 滝平二郎/絵 岩崎書店 一日のうち半日しか日の当たらない半日村。少年の一平は、何とかして貧しい村に日をあてようと考えます。	『へいわってすてきだね』 安里有生/詩 長谷川義史/画 プロダクション 与那国島の安里有生君が一年生の時、「平和のメッセージ」に寄せた詩。「このへいわが、ずっとつづいてほしい」という願いが伝わってきます。	『ととけっこう よが あけた』 こばやしえみこ/案 ましま せつこ/絵 こぐま社 今年とはり年。元気なニワトリが動物たちを起こして歩きます。小さい子ども達と一緒に楽しめるわらべ歌の絵本です。	『わたしたちのカメムシずかん やっかいものが宝ものになった話』 鈴木海花/文 はた こうろう/絵 福音館書店 (たくさんのふしぎ 2016年11月号) カメムシというやっかいものが集まって困っている山間の小学校。しかし、なんとそれが宝物になるのです。	『雪の写真家 ベントレー』 ジャクリーン・ブリッグス・マーティン/作 メアリー・アゼリアン/絵 千葉茂樹/訳 BL出版 アメリカの豪雪地帯に生まれたベントレー。生涯をかけて撮り続けた『雪の結晶』の写真集は、世界中の人に雪の素晴らしさを教えてくれました。	『りんごのおじさん』 竹下文子/文 鈴木まもる/絵 ハッピーオウル社 最後まであきらめず、無農薬のりんごを作った木村秋則さんの実話をもとにした絵本。9年目に咲いたりんごの花が感動的です。
---	---	--	--	---	--